

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

親政クラブ 小川隆史、林利幸、長崎任男、馬場和子、和田一繁

(2) 実施日：令和8年2月16日（月）～17日（火）

(3) 視察先：①16日 福岡県みやま市

②17日 福岡県宗像市

【1. 調査の目的】

①みやま市

人・動物・環境の健康を包括して守る「ワンヘルス」の取組を本市でも取入れ活用する事ができないか調査しました。

②宗像市

(1) 本市における現状

令和5年4月に子ども基本法の施行を受けて、法の目的である、すべての子どもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、子ども政策を総合的に推進することの具現化が求められているものの、具体的な持論、協議がなされていない状況であります。

(2) 本市における課題

子どもに関する施策は、教育委員会だけでなく、また、こども家庭部にとどまることなく、全部局にも関わる問題でもあるため、庁内横断的な議論が進まない現状から、子ども基本法に基づく施策の実施に至っていないことが課題です。

【2. 調査地選定理由】

①みやま市

(1) 調査項目

- ・そもそも「ワンヘルス」とは何か
- ・全国初の「ワンヘルス推進宣言」を表明されるまでの経緯
- ・「ワンヘルス」の具体的な取組みや成果、課題

(2) 選定地1：

福岡県みやま市

②宗像市

(1) 調査項目

キャリア教育推進連携表彰 最優秀賞受賞「むなかた子ども大学」の取組について

(2) 選定地1：

福岡県宗像市

【3. 調査結果】

①みやま市

(1) 内 容

そもそもワンヘルス（One Health）とは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方で次なるパンデミックへの備えと

して人類が健康に暮らしていくためには地球に暮らす動物、そして地球自身も健康である必要があるとのことでした。

みやま市は太陽光発電による電力会社の設立やバイオマスセンターによる資源循環型社会の実現、ゼロカーボンシティ宣言などとともに環境施策に積極的に取り組んでこられていたそう、また福岡県としても「ワンヘルスの推進」を重点施策の一つに掲げ、ワンヘルスの世界的先進地となることを目指し、ワンヘルスの実践拠点の整備や世界トップクラスの研究者が集う国際会議の開催を推進してこられたとの事であった。令和2年に福岡県議会で全国初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が可決され、翌年から施行。みやま市は令和3年9月に「ワンヘルスのまち みやま」を目指し全国初となる「ワンヘルス推進宣言」を表明し今日まで様々な取組を実施されていました。

具体的な取組としては、まず「ワンヘルス推進行動計画」を策定され、7つの柱からなる基本指方針を定め施策に展開されており、環境保護のためにエネルギーと資源循環のまちづくりの推進、ワンヘルス実践の基盤づくりのために市民や事業者への普及啓発、市内全小中学校でのワンヘルス教育の実践をされている。また年1回ワンヘルスフェスティバルを開催されていました。

成果としては、全職員に対するワンヘルス研修を実施したことで意識の醸成が図れ、またワンヘルス教育の実践による意識改革や、教育を受けた子供たちから家族等への普及啓発も行われたとの事。またワンヘルスの推進で各種団体とのつながりも生まれたとの事であった。最終的に目指す姿は「次世代につないでいくこと」だと考えておられ、そういう意味ではまだまだ浸透していないので普及啓発が課題だとの事でした。

(2) 考 察

みやま市の「ワンヘルス」の取組は市民や事業者を巻き込み健康に特化した素晴らしい取組だと感じたが、みやま市単独ではなく福岡県も一緒になって県を挙げてワンヘルスを推進しておられるのでそのことが大きいとも感じた。

施策の展開にあたっては7つの柱ごとに様々な事業に予算を付け実施されているが、財政状況が非常に厳しい本市においてはみやま市のような「ワンヘルス」の取組を行うことはなかなか難しいかもしれない。しかしながら、次なるパンデミックへの備えは必要であるので、今回視察したワンヘルスの考え方も大切だと感じたので、今後議論して行ければと思う。

②宗像市

(1) 内 容

むなかた子ども大学の目的は、教育関係者、企業、市民、行政の総がかりで、「本物を体験する」機会を提供し、学校でのキャリアプランニング能力向上を行うことです。

キャリアプランニング能力向上により、人の理解が進み、社会的役割が把握できることで、自身の将来設計ができる能力が持てます。

むなかた大学の取り組み事例

1 メインキャンパス

年一度市内会場内で、35の講座を約4時間学ぶ。

2 特設講座

月2回、事業者施設で約2時間、職業・技能に係る講座を実施。

3 子ども大学の日

市内全小学校で、タブレットを使い、保護者・企業・地域の方と体験・学習を実施。

4 夏の課外授業

小中学生に対し、事業者、団体が約70の講座を展開する。

※子どもの興味・関心を深堀させ、自己理解→職業理解→将来イメージの具体化→自身の目標決定、就職・進路の自己決定ができる能力を身に付けさせることができます。

子どもの声には「大人になることが楽しみ」があったとのこと。

※今後の展望

(1) 講座内容のグレードアップ

(2) メインキャンパスから特設講座へスライド

(3) 夏の課外授業に市主体コースを導入し、行政も含めた市全体での取組への拡充

(2) 考 察

子どものことは、子どもが決める。まさに、こども基本法の根本理念の実践を目指した取組を展開されていると感じました。

子どもに対し、指導要領に基づく学習内容を伝える学校の学びに加え、教職員にしてみれば、プラスαの仕事になりますが、将来を生き抜く力を身に付け自分の将来だけでなく地域の将来も考えられる子どもになってもらうことを目的に実施していると職員が説明されたことが特に印象的でした。

人口は本市とあまり変わらないが、職員数は約700人。少ない職員数で、効果的な施策をなすためには、地域、企業等の協力を借りなければなせないのも、職員は企業、地域周りを懸命に行っていて、よく働いていますと、局長自らが説明されていた姿に、まさに総がかりの取組であることを実感しました。